

□特性の理解…本人の立場で考える⇒興味のある活動や楽しめる活動を見つけて不必要な介入をしなくても済む、分かりやすい環境や伝え方で(本人の可能性を勝手につぶさない)

- ・優れている・劣っているのではなく違っている(自閉症の文化)
- ・特性を理解することで…本人の困り感を理解する鍵になる、本人がより豊かに生活するためのサポートを見つけることができる。

●特有の捉え方(自閉症の学習スタイル)

●感じ方の違い(感覚の特異性)

●三つ組の特性

自閉症の学習スタイル

- ・視覚的に考える(視覚優位)・独特の注意の向け方・時間や空間の整理統合することの困難
- ・記憶の特性(短期記憶と長期記憶)・中枢性統合の弱さ

感覚の特異性(私たちと違った感覚)

- ・聞こえ方の違い・味覚異常・痛みに鈍感・触れられただけでもチクチクするなど人によってさまざま

三つ組の特性

①対人関係や社会性の質的な障害

- ・人を意識しない・共感性の欠如／・人と適切にやり取りできない／過度に礼儀正しく、ルールに厳格

②コミュニケーションの質的な障害

- ・話し言葉がない、話し言葉の発達の遅れ／話し言葉があっても、コミュニケーション道具として上手く使えない

③こだわりと想像力の障害

- ・同じ行動を繰り返す、決まった手順や儀式にこだわる／・狭い興味に没頭する、物などの収集／経験していないこと、目に見えないことを想像するのが難しい



感覚の特異性・苦手な刺激				
 コントラストの強さ 視覚	 蛍光灯のちんつき 視覚	 子どもの鳴き声 聴覚	 サイレン音 聴覚	 不規則な運動 運動感覚
 垢臭臭 嗅覚	 特定の人の体臭 嗅覚	 偏食 味覚	 多飲 食行動	 目が回らない 平衡感覚
 感覚の鈍麻 触覚	 眼軸り 触覚	 多人数 感覚	 広さ 感覚	 気圧 感覚

□苦手なことばかりではない自閉症の人の得意なところ

- ・視覚からの情報の取り込みは強い(視覚優位)
 - ・見通しを持つことで安定(安心)してられる
 - ・興味があることや意味のわかることには集中できる
 - ・経験したことがあることは分かりやすい
- ★分かることで自閉症の人たちは、安心して自発的に行動できて自立の範囲が広がる

□させない・止める対応はやがてできなくなる(その対応が行動障害を作っていく)

★不適切な行動を適切な行動へ変えるアプローチ

【まとめ】

・行動には何か考えや思いがあるので、本人が納得して動ける方法を工夫したり、考えることが大切だということ、本人が自ら動けるようにどのように伝えていけば良いのかを考えられるようになりたい。また、失敗してもこうしたらできた具体的な経験としてできれば良い時間の上書き保存をすることができることフィードバック時は保護者の気持ちの共感、本人の共感をすることが大事と教えていただいた。